

## 豊蔵 和の心映る名品

多治見で人間国宝リレー展

東濃信金 100周年、第1弾

とうしん美濃陶芸美術館（多治見市虎溪山町）は東濃信用金庫100周年記念事業として、今年1年かけて美濃が輩出した人間国宝6人の作品を順次特集する「美濃陶芸6人の人間国宝展」を開く。7日には初回の荒川豊蔵展が開幕し、人間国宝の加藤孝造氏（86）らがテープカットをして祝った。

同金庫が1986年から行っている美濃陶芸作品永年保存事業で購入した作品



人間国宝シリーズの皮切りとして始まった荒川豊蔵展＝多治見市虎溪山町、とうしん美濃陶芸美術館

や、個人が持つ珍しい作品も借り受け披露する。

荒川豊蔵（1894～1985年）の作品は、認定された志野、瀬戸黒の茶碗をはじめ、黄瀬戸の花入れ、色絵の鉢に染め付けの四方皿まで65点。志野は柔らかい釉薬が温かみを感じさせ、薄紅色がユズのような肌に浮かぶ「最も日本的な味わい深い焼き物」という、作家の美意識を反映させた名品が並ぶ。

志野が美濃で焼かれたことを発見した逸話について描いた絵や、日本画家の前田青邨や川合玉堂との共作、晩年に意欲的に手掛けた備前や萩焼の作品もあり、豊蔵の全体像が伝わる展示となっている。ほかの5人の作品も1点ずつ飾られている。

この日は国立工芸館（金沢市）の唐澤昌宏館長による特別講演会もあった。豊蔵展は2月27日まで。入場無料。月曜休館。

（箕浦田美子）